

## 平成27年度 鳥獣被害対策技術情報 第2号

(平成27年6月29日)



### 7月の鳥獣被害対策

福島県農林水産部農業振興課



夏期は野生の餌が少なくなるため、鳥獣が農作物を加害するようになります。中でもスイカやトウモロコシは様々な獣に食害され、例年7～8月にかけて各地で被害が発生しています。果樹ではモモの収穫が本格化する7月中旬以降、ニホンザル、イノシシ、ハクビシンなどの被害が多くなります。家畜飼料ではツキノワグマの被害が確認されています。

被害が確認されている地域では、ほ場周辺の藪を解消したり、あらかじめ防護柵を設置するなど早めの対応を心がけましょう。

#### 1 スイカやトウモロコシの被害対策

スイカやトウモロコシは、ハクビシンやタヌキなどの中型獣やツキノワグマなど多くの獣が加害します。

獣の痕跡が認められる場合は、まず、ほ場周囲に電気柵を設置しましょう。ハクビシンなど中型獣では地面から10cm間隔で3段（各段ともプラス通電）張り、柵の内側に支柱を利用しネットを設置すると飛び込みなど無理な侵入が少なくなり被害がより軽減できます。ネットは、野菜誘因用など安価な市販品で十分です。ツキノワグマでは地面から20cm間隔で3段（各段ともプラス通電）張りとします。また、ハクビシンなど登ることが得意な獣種は、特性を逆手に取ったネットと電気柵を組み合わせた防護柵「白落くん」や「楽落くん」(<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/cyoujyuu-tantou.html>)を活用すると侵入防止効果が高まります。「白落くん」や「楽落くん」を設置する場合は、ネットが破損していないことやネットと地面との間に隙間をなくすことが大切です。

ハクビシンなどの中型獣は、被害ほ場周辺の廃屋や神社仏閣、住宅や倉庫の屋根裏、野積みされた樹木などの中を寝屋としていることも多く、その解消も重要です。

#### 2 モモの被害対策

##### (1) ニホンザル対策

サルは群れで行動することから加害頭数が多く、被害が大きくなりがちです。

まず、電気柵やネット柵を設置してほ場内へ容易に侵入できないようにしましょう。

電気柵を設置する場合は、地面からまず15cmに1段、次いで20cm間隔で7段、計8段のワイヤーを張ることが基本となります。

1段目のワイヤー設置位置を地面から15cmとするのは幼獣の地際からの侵入を防ぐためです。また、各ワイヤーの通電は地面から3、5、7段目がマイナス、そのほかはプラス通電とします。

しかし、サルは工夫して侵入する個体が現れると、学習能力が高いことからそれをまねて複数の個体が侵入するようになります。電気柵を張っても被害が見られる場合は、サルの行動に応じた工夫が必要になります。

これまで県内では、支柱の通電していない部分を握りながら登って侵入した例や飛び込んで無理に侵入した例があります。そのような場合は支柱に沿って縦に同じ電極の段を1箇所ワイヤーで繋いだり（例：4段目と6段目のプラス通電、または3段目と5段目のマイナス通電のいずれかを繋ぐ）支柱を活用し柵のすぐ内側にネットを張るなどの工夫が必要になってきます。ネットを使用する場合は白い防風ネットが有効です。サルは視覚で加害する農作物を認識することから白い防風ネットは柵の中が見えにくいいため有効です。ネットの目合いは10mm前後で効果が見られます。ネットを併用する場合、ネットを結束する支柱は十分強度のあるものを用いてください。枝受支柱や矮台支柱などを用いることも可能です。

ネット柵は「猿落くん」(<http://www.pref.nara.jp/secure/42364/34-39enraku.pdf>)などが開発されており、侵入に時間がかかるため追い払いとの併用で効果が高まります。

なお、農作物に被害を及ぼすサルは、早期に捕獲し電波発信機を装着して群れの行動把握をすることが大切です。サルの活動時間はおおよそ日の出から日の入りまでで、夜間は被害を及ぼしません。

## (2) イノシシ対策

イノシシは高さ1m程度まで結実している実を直接食べたり、枝を啜えて折るなどして実を食べます。枝が折られると翌年の生産にも影響することから早めの対策が必要です。

イノシシの痕跡が認められる場合は、ほ場周囲に電気柵を地面から20cm間隔で2段（各段ともプラス通電）のワイヤーを設置しましょう。

## (3) ハクビシン対策

モモは収穫期になると、ハクビシンによる食害が各地で見られます。例えば、果実上部が樹体に残っていたり、樹木のそばに糞があった場合などはハクビシンによる被害の可能性があります。

痕跡が認められる場合は、上記、「1 スイカやトウモロコシの被害対策」を参考にしてください。

## 3 家畜飼料のツキノワグマ被害対策

野生の餌が少なくなる夏期は、クマが乳用牛や繁殖和牛のラップサイレージを破ったり各畜種の配合飼料の盗食が見られます。配合飼料を盗食する場合は、施設を破壊するなど施設被害を伴うこともあります。配合飼料などにクマが餌付いてしまうと、電気柵を張ってもそれを破って侵入を試みるなど対策が困難になるとともに、人身被害の危険が高まります。

そのため、配合飼料は日頃から保管場所を決めるとともに、クマが容易に侵入できない構造としてください。

クマの痕跡が認められる場合は、ラップサイレージや施設周囲に電気柵を地面から20cm間隔で3段（各段ともプラス通電）設置しましょう。

## 4 共通対策

各獣種とも集落ぐるみで藪の刈り払いを行い、農地周辺に獣が潜む場所をなくしましょう。また、生ゴミや収穫残渣は穴を掘って埋めるなど、むやみに捨てることはやめましょう。ほ場を防護柵で囲っても、生ゴミや収穫残渣を容易に食べることができれば野生鳥獣は集落周りに住み続けます。

## 5 アライグマの被害拡大について

近年、県内でも浜通りを中心に被害が拡大しています。ハクビシンなどと同様、糖度の高い果樹や果菜類、トウモロコシなどを好んで食害し、他の中型獣より集中的な被害をもたらす傾向があります。

被害が見られる場合は、ハクビシンと同様にほ場周囲に電気柵や「白落くん」、「楽落くん」を設置すると被害が軽減できます。

ハクビシンとの被害痕跡の違いや特徴などは次のとおりです。

作物等	アライグマ	ハクビシン
トウモロコシ	茎を完全に倒して食べる	茎を斜めに倒して食べる
スイカ	500円玉大の小さな穴を空け、手を入れて中身を食べる	顔を突っ込んで食べるため、穴が大きい
果実	果実の食害だけでなく、葉がちぎれたり枝が折れるなど樹体被害が見られる	樹体に果実の軸や基部が残っていたり、皮がはき出されている



写真 スイカのアライグマとハクビシンの加害痕（左：アライグマ、右：ハクビシン）  
野生鳥獣被害防止マニュアル（農林水産省発行）より引用

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>